

阿寒摩周国立公園弟子屈町における ゼロカーボンパーク登録概要

令和5年1月31日（火）

北海道ゼロカーボンパークシンポジウムin阿寒湖

阿寒湖温泉 まりむ館

弟子屈町観光商工課 秋山一夫



摩周湖と いで湖のロマン 弟子屈町

弟子屈町の紹介及び観光の現状

阿寒摩周国立公園の56%は弟子屈町のエリア
弟子屈町の総面積の65%は国立公園のエリア

弟子屈町は

- 火山とカルデラが作る素晴らしい景観
- 豊かな自然を生かした多彩なアクティビティと温泉

限りないポテンシャルを持つ地域

弟子屈町の紹介及び観光の現状

火山とカルデラが作る素晴らしい景観

年間入込客数 令和元年度88万7千人（令和3年度51万1千人）

摩周湖



硫黄山（アトサヌプリ）

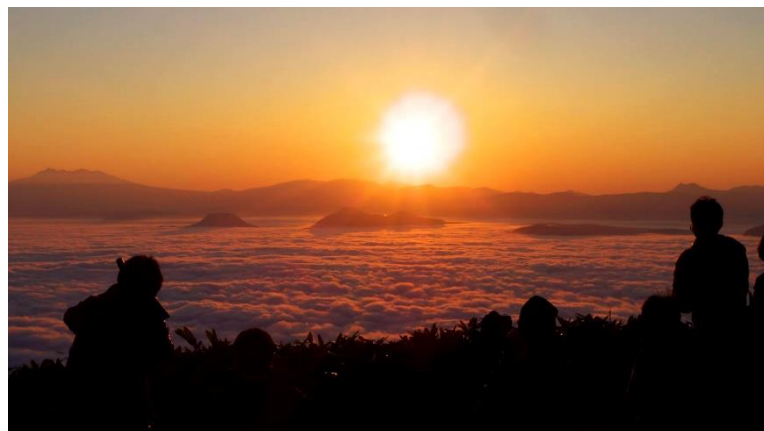


屈斜路湖



弟子屈町の紹介及び観光の現状

豊かな自然を生かした多彩なアクティビティと温泉



変わっていく弟子屈町

再生可能エネ～地熱発電、マンゴーなど温泉を使った農作物

新たなホテル誘致～川湯温泉の更地などにホテルを誘致

若者が元気に～若者が作ったまちづくり会社、協力隊員

特産品の開発～ワイン、和牛、チーズなど

世界的に選ばれる観光地を目指す

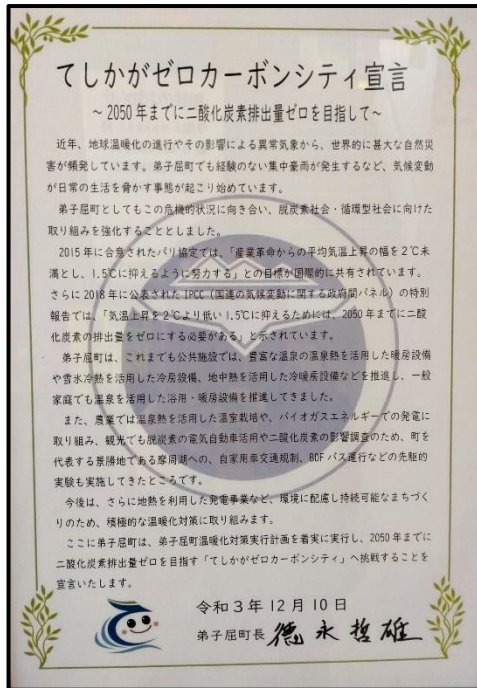
観光振興計画の策定（令和4年4月）

えこまち推進協会設立や観光協会の合併から10年以上経過。

町全体が同じ方向を向き、アクティビティと宿泊などの経済活動との連動。100年後も観光地であり続ける（サステナビリティ）

持続可能な観光地づくりの国際的な指標を取り入れた計画

ゼロカーボンパーク登録の背景



昭和52年（1977）現在の役場庁舎の完成
（温泉熱暖房の導入）

平成 7年（1995）ごみの分別収集開始

平成19年（2007）環境にやさしい観光交通実験

平成20年（2008）森林と共生するまち宣言

平成23年（2011）道の駅摩周温泉オープン

（温泉熱暖房、太陽光発電）

平成27年（2015）地熱理解促進事業開始

令和 3年（2021）12月ゼロカーボンシティ宣言

令和 4年（2022）6月ゼロカーボンパーク登録



ゼロカーボンパーク登録の概要

条件	概要	進捗状況
適切な森林管理や自然環境の保全による吸収量の確保を図るとともに、自然環境の保全に配慮した形で、需要側のカーボンニュートラルに向けた具体的な取り組みを行う予定があること	エゾマツ・トドマツを中心とする原生林など自然環境が保全されることによりCO2吸収量の確保が図られている	保全中
	公共施設において、温泉熱、地中熱、太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用（役場庁舎等）し、今後活用予定（川湯保育園にてヒートポンプを予定）	実施中
	川湯温泉の民間宿泊施設において温泉熱を活用	実施中
	地熱を活用した新たな発電事業の推進	進行中
	国立公園利用施設のRE100対応推進（摩周湖硫黄山レストハウス）	検討中
	域内モビリティの脱炭素化	検討中
	マイカー規制による脱炭素化及び観光資源の高付加価値化	検討中
国立公園内のみならず、周辺の観光エリアやアクセスを含め、エリア全体の脱炭素化を進めるものであること	阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想の推進	準備中
	公共交通機関の利用促進や次世代自動車の導入	一部実施中
	エリア全体での再生可能エネルギーの利用促進（雪氷冷熱、ヒートポンプ、温泉熱利用（庁舎、歩道、農作物等）	実施中

ゼロカーボンパーク登録の概要

条件	概要	進捗状況
脱炭素以外にもプラスチックごみの削減などサステイナブルな観光地づくりに資する取組があること	マイボトル、マイバッグの推奨によるプラスチックごみ削減 (川湯ビジターセンターにて給水スポット設置)	一部実施中
	非プラスチック製品への切り替え (摩周湖・硫黄山レストハウス)	一部実施中
	ポイ捨てごみ回収システムの検討	検討中
脱炭素・脱プラスチックの取組を国立公園利用者に対して普及啓発するものであること	主な国立公園利用拠点における普及啓発やSNS等を活用した広報	検討中
	持続可能な観光認証への登録及び体制の強化	継続申請中
	観光振興計画の推進及び地域DMOの登録、情報の発信	実施中
上記事項等を進めていくことについて、具体的な目標又は計画・ビジョン等(可能な範囲で2050年までの年限)があること(既存の計画等へ位置づけることも可とする)	阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025	実施中
	弟子屈町観光振興計画に基づく、エコツーリズムの推進、環境負荷が少ない2次交通の整備、脱炭素に向けた取り組み等	実施中
	2022年度からスタートした弟子屈町温暖化対策実行計画(区域施策編)で温室効果ガス排出量の2050年度までの排出量実質ゼロに	実施中
	再生可能エネルギーの活用を中心に取り組み、2050年度を目標年次とした「地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画」を令和4年度中に策定	策定中